

研究協力にとどまらない国際協力事例

ODAとの連携に向けた知的インフラ構築を目指して

～社団法人産業環境管理協会による公害防止管理者制度のアジア普及に向けた取組～

公害防止管理者等国家試験の実施機関に指定されている（社）産業環境管理協会（JEMAI）では、経済成長に伴い発生した環境汚染問題への対応を迫られている、タイ、インドネシア、中国等アジア諸国で、我が国の公害防止に大きく貢献してきた公害防止管理者制度の整備を推進している。

我が国は、これまでODAで先端機材を導入し、これを使う人材の育成を行ってきた。しかし、この技術を他地域で展開する際、機材を使いこなすに十分なスキルを持つ人材が展開先に育っておらず、技術協力終了後にODAで導入した機材や技術が使われなくなるケースが見受けられた。このような状況を改善すべく、日本との協力で導入した設備等が継続して活用されるよう開始した取組が、日本の制度を参考にした、現地の状況に適する公害防止管理者制度の普及である。

この制度の普及にあたっては、「現地の問題を解決するには、問題を最もよく認識している現地の人材を使って、彼らの身の丈にあった仕組みを構築する」をモットーに、現地政府の要請に基づいて日本から専門家を派遣、あるいは日本へ現地関係者を招へいし研修を行うといった形で支援が進められている。これにより、その国に適した制度が構築され、技術者の質の向上や環境コンプライアンス意識の定着も見られている。

今後は、環境対策技術協力にとどまらず、この公害管理者制度や規制制度等とパッケージ化し、アジア諸国の環境問題を解決すると共に、ひいては環境技術の「アジア標準」が創出され、我が国の環境産業がアジアで発展するよう、戦略的な展開が期待される。



タイの国家試験の様子